

比較家族史学会 報 比較家族史 12 会

事務局 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学社会科学研究所 利谷研究室

第一五回研究大会プログラム

日時 一九八九年六月十日(土)・十一日(日)
場所 大正大学 本部棟一号館2F 大会議室

(交通手段については地図を参照 JR線巣鴨駅
乗り換え 都営三田線西巣鴨駅下車徒歩2分)
テーマ 家族と墓

懇談会 六月十日(土)報告終了後(御後五時半位から)
費用 四〇〇〇円程度
場所 中会議室

第一日(十日)

◇会長挨拶 (09:30~) 永原 慶二

◇テーマ報告

・問題提示

09:40~ 藤井 正雄(運営委員長)

・アラブ・ムスリムの墓観—ヨルダンの事例から

10:00~ 清水 芳見(民族学振興会)

・近世ヨーロッパにおける家族・教会・墓—ニダー-

ライン地方ウッパタールの事例を中心に

10:30~ 村山 聡(慶応大学)

・韓国の墓と家族—その変化を中心として

11:00~ 朝倉 敏夫(国立民族学博物館)

・祖先祭祀を通じてみた家族と宗教—香港新界の事例

から 11:30~ 瀬川 昌久(東北大学)

・祭祀承継における墓と法律問題

13:00~ 竹内 康博(東邦学園短大)

・女と墓—揺れるイエ意識

13:30~ 森 綾子(日本女性学研究会)

第二日(十一日)

・中世日本の墓と民衆

10:00~ 細川 涼一(京都橘女子大学)

・平安貴族層の墓地と家族—平安初中期の藤原氏

10:30~ 服藤 早苗(東京都立大学)

・考古学からみた陵墓

11:00~ 白石太一郎(国立歴史民俗博物館)

◇総会(12:30~)

◇シンポジウム「家族と墓」(13:30~17:00)

運営委員 藤井 正雄(委員長) 村武 精一

義江彰夫 孝本 貢

星野澄子 藤見 純子

* 出欠のはがきは六月三日までにお出し願えればと存
じます。

・現代日本家族とペット霊園—ペットの人間化

14:00~ 武田 道生(大正大学)

・移民・家族・墓—ブラジルを中心として

14:30~ 前田 隆(静岡大学)

・村落・家・個人—三重県菅島の墓制と家族

15:30~ 田中真砂子(お茶の水女子大学)

・明治初年の墓地および埋葬に関する法制の展開—祖

先祭祀との関連において

16:00~ 森 謙一(茨城キリスト教短大)

・近世成立期の墓と家族

16:30~ 尾藤 正英(川村学園短期大学)

問題提起 「家族と墓」

藤井正雄

(1) 問題の所在

墓地問題は、とくに都市部においては今や社会問題で化している。一家で〈難・遠・狭・高〉といわれるように、都市住民にとって墓とは得難く、取得できても遠く、狭く、かつ高い買物となり、墓の承継をめぐってのトラブル(難問)も多い。そして、宗教の私事化、イエ意識の後退および、家族関係の変容に伴い、〈生相代々墓〉に代わって〈両家の墓〉や、墓石に和・眠・憩・夢・やすらぎ・空・愛・寂・静といった抽象的な文字を刻む墓が出現し、そのなかには「先祖代々」とは刻むことができない事情を秘めた端な例では故人を偲ぶためのシンボルとしての造形美術的なモニュメント墓も出現して、慰霊形態は多様化の様相をみせている。

とくに女性の自立意識の高揚を反映して、イエ意識が揺らぎ、家墓から夫婦墓、個人墓への志向がみられる。また、高令化社会の到来で増加傾向の一途を辿る後継者を欠く一人暮らしの中高齢層の増加などあいまって、生前墓が増加、いわゆる〈仲良しの墓〉や会社の福祉事業としての企業墓も出現している。さらにかつての番犬や地位を獲得して、郊外に大型の民営ペット霊園が、電話帳に独立の項目が設けられる程にまで成長、展開している。

「家族と墓」のテーマを設定したゆえんは、こ

のような墓に対する庶民のニーズの多様化現象をファンダーにして、そこにくりひろげられる〈家族〉の諸問題を複眼的な視角のもとに浮き彫りにし、諸外国の対比とさらに歴史的に遡及して、〈日本人にとって墓とはなにか〉を問うことを目的に掲げたい。

(2) アプローチの視座

葬法には通文化的にみて太古から土葬、火葬、水葬、風葬の四葬がある。葬るという行為は死体処理と慰霊の二面性をもつことから、墓制と不可分の関係にあり、葬墓制と一括される。葬墓制の構成要素は、死者、死者から遊離すると考えられる死霊、そして残された遺族の三者からなる。いうならば遺族がどのようにして死者を扱い、死霊とどう関わるのか―遺骸観、靈魂観、他界観―によって、さまざまな葬墓制が存在することになる。

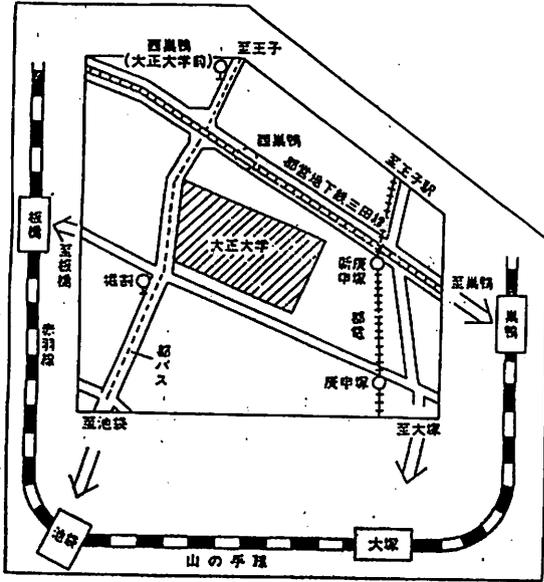
さきに述べたように、今回のテーマはとくに日本の墓制と総合的に、学際的にとらえることにあるので、アプローチの視座として三部構成をとる。すなわち異質のキリスト教圏、イスラーム教育との文化比較を通して、日本の墓制の特質をまず浮き彫りにする作業からはじめる。次いで日本の墓制に大きな影響を与えた東アジア仏教・儒教圏の韓国・中国との文化比較を行う(第一部〈文化比較〉10日午前)。

つづいて日本の墓制の現状分析を行う(第二部〈現状分析〉10日午後半部)。

墓を大きく①個人墓、②家墓、③合葬墓と分けた場合、現状において主流をなしているのは

②家墓である。いうまでもなく墓の見本形態は個人墓である。家墓は個人墓の集合で家累代に及ぶとともに傍系世帯を排除する特徴をもつ。合葬墓は傍系世帯を排除することなく包含する、総墓と称される同族墓、一族墓となる。詳しくは「比較家族史研究」第3号に「家族と墓をめぐる諸問題」の特集を組んであるので触れないが、〈墳墓の地〉と致されるように、墓制は族制、村制にかかわるだけでなく、〈墓のない村〉で知られるように、本山納骨は信仰を紐帯とする合葬墓で、寺院を単位に、あるいはとくに新宗教教団にみられる総供養塔なども存在する。そして、女性、仲よし、社縁を紐帯とする合葬策として注目される形態でもある。異質の文化状況のなかで日系移民が墓制の再現、変容する姿も、これらの墓の形態と家族とのかかわりの軸で現状分析が行なわれる。

現在の墓地行政は、墓地を都道府県知事の認可する一定の土地に限定し、その他に遺体を埋葬しないし焼骨を埋蔵する施設を墳墓と規定している。この墓地および墳墓の現定は、明治十七年(一八八四)に「墓地及埋葬取締規則」(太政官布達第二五号)、「墓地及埋葬取締規則施行方法細目標準」(内務省達乙第四〇号)及び「墓地及埋葬取締規則に違反する者処分方」(太政官達第八二号)が制定され、今日に及んでいる。かくして、両墓制のなかでも〈詣り墓〉は法的には墓地とは認められないことになった。これらは経緯を歴史的に遡り、庶民の墓の築造、貴族の墓、さらには考古学による古代王墓へと遡源



していく(第三部「歴史的遡及」10日後午後半) 11日午前)。

以上、文化比較、現状分析、歴史的遡及の三部構成の報告をうけて、個人・家・村落・信仰とのかかわりのなかで(日本人にとっての墓とは何か)をシンポジウムで問うことになる。シンポジウムは一定の結論をだすことを目的とするものではない。多くの活発な論議を期待したい。なお「家族と墓」のテーマについては、今回の報告のなかでは仏教信仰の教義的かかわり、差別戒名の問題など時間的制約のなかで刻愛を余儀なくされた。大きな問題があるだけに、将来別のテーマを掲げてとりあげられることを望みたい。

研究大会に関連する連絡事項

- 1 弁当の予約について
会場近くには食事の場所は多くありませんので、なるべく弁当をご注文いただければと存じます。弁当は八〇〇円程度を予定しています。
- 2 大正大学の住所・電話番号
東京都豊島区西巢鴨三二二〇一
☎ 〇三一九一八七三二一

事務局からのお知らせ

- 1 会費の納入について
振替用紙を同封いたしましたので、会費納入をよろしくお願いいたします。封筒の住所の下に、納入済みの年度(西暦の下二桁)を記入してありますので、御確認いただければと存じます。
- 2 シリーズ家族史について
一月にシリーズ家族史4「家と女性―役割」が発売されました。まだ、購入されていない方は三省堂へ直接申し込んでいただければと存じます。二割引、送料三省堂負担でお送りいたします。なお、一巻二巻三巻につきましても同様の取り扱いをいたしますし、続巻につきましても同じ取り扱いをいたします。まだ、申込をされていない方は、よろしくお願いいたします。

〒一〇一
東京都千代田区三崎町二二二二一四
三省堂 「シリーズ家族史」係

3 自由報告の募集について

第一五回研究大会は、テーマ報告の都合で自由報告がなくなりましたが、第一六回研究大会では自由報告を募集する予定です。日程は一月下旬、場所は神戸大学を予定しております。申し込み方法などにつきましては改めてご連絡させていただきますので、お含みおきください。

4 年報「比較家族史研究」の購読のお願い

「比較家族史研究」のバックナンバーは、発売元の弘文堂では創刊号および第2号・第3号共に二〇〇部程度あります。図書館などで必要な場合を含めて、弘文堂へ申し込んでいただければと存じます。所属の図書館にて定期購読をお願いすることができたらと存じます。なお、創刊号は、事務局の方にはすでに残部はありません。

幹事会 議事録

日時 一九八八年一月二六日
場所 京都橘女子大学

1 新入会員の承認(別紙承認)

2 第一五回研究大会

- ・日時 一九八九年六月一〇日・一一日
- ・場所 大正大学
- ・テーマ 家族と墓
- ・運営委員 藤井正雄(委員長) 村武精一 義江彰夫 孝本貢 星野澄子 藤見純子

3 役員の内任についての規約改正(承認)

第8条 本会は、会の運営と会計の監査のため、役員として会長・副会長・幹事および監査若干名をおく。

2 幹事会は会長、副会長および幹事によって構成する。監査は幹事会に出席し発言をすることができる。

3 幹事会は、会長1名、副会長若干名を選出し、総会の承認をうける。

4 幹事会は幹事および監査の候補者を推薦し、総会がこれを選任をする。

5 役員任期は3年とする。役員再任はこれを妨げない。ただし、会長はこれを再任しない。

6 幹事会は、本会の運営について意見を聞くために顧問を若干名委嘱することができる。

4 比較家族史研究編集委員

井ヶ田良二氏と正岡寛司氏に依頼。

(編集事務局奥山恭子氏)

総会 議事録

日時 一九八八年一月二六日

場所 京都橘女子大学

1 規約改正(役員任期)

幹事会案……承認

2 その他(報告)

・第一五回研究大会について

・シリーズ家族史について

・比較家族史研究編集委員について

幹事会 議事録

日時一九八九年三月二三日

場所 学士会館

1 永原会長の辞意に基づく会長の選出について(規約8条3による)

幹事会としては大竹秀男氏を選出した。

2 今後の研究大会のテーマについて

企画委員会(仮称)を設ける。とりあえず委員を次の各氏に依頼

委員 江守五夫 正岡寛司 渡辺欣雄

大藤修 森謙二

3 比較家族史研究第四号の編集について

第四号の特集のテーマは企画委員会(仮称)と相談して決める。

4 今後のシンポジウム成果刊行について

(継続審議)

新入会員

大橋 広憲 法社会学・ドイツ現代思想

早稲田大学(研究

生)

大平 祐一 日本法制史

立命館大学

関 啓子 教育社会学・教育思想・比較教育

一橋大学

寛 久美子 中国文学

神戸大学

馬場 千世 法制史

愛知学院大学大

学院 富永 桂子 西洋史(ロシア史)

筑紫女学園

短大・福岡工業短期大学

大野 博実 民法・法社会学・フランス法

千葉大学

松村 尚子 社会学・家族及び婦人問題

大谷大学

曾根ひとみ 日本近世史

神戸大学

岩崎由美子 民法学

早稲田大学大学院

森 雅雄 社会人類学

民族学振興会

許 末恵 家族法(民法)

神奈川工科大学

武田 道生 宗教学・宗教社会学

大正大学

(住所変更等につきましては、次の会報に掲載いたします)